

学部 / 看護専門領域 / 看護の基本

科目コード : 120207

## 基礎看護学実習Ⅱ Basic Nursing Practice Ⅱ

担当教員	中田 弘子、木森 佳子、林 静子、田村 幸恵、三輪 早苗、瀬戸 清香、丸岡 直子				
実務経験					
開講年次	2年次後期	単位数	2	授業形態	実習
必修・選択	必修	時間数	90		
Keywords	看護過程の展開、基本的態度				
学習目的・目標	【学習目的】 医療機関で健康障害により入院生活を送っている対象を受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力を習得するとともに、看護職として必要な態度を身につける。 【学習目標】 1. 看護に必要な情報をアセスメントし、看護上の問題の明確化、看護計画を立案し、実践できる。 2. 看護過程を通して看護職として必要な態度を身につける。				
授業計画・内容					
	内容				
	1. 日程・内容・場所				
	時期	内容	場所		
	2年次夏季休業期間の内の2週間	事前学習	学内で受け持ち患者の紹介、必要な知識・技術の学習		
		臨地実習	県内の医療機関3施設において2週間の実習を2クールに分けて実施		
		実習のまとめ	同上		
	2. グループ編成 1グループは3～4名程度で編成し、各医療施設（病棟）で実習する。				
	3. 受け持ち対象 健康障害により入院生活を送っている対象1名を受け持つ。				
	4. 具体的な方法 1) 入院中の対象の紹介を受ける。 2) 看護に必要な情報を収集し、アセスメントする。 3) 看護上の問題を明確にし、看護計画を立案、実施する。 4) 実施場面を再構成し、対象との相互作用について振り返り評価する。 5) カンファレンスを通して、実習体験を意味づけするとともに他の学生と学びを共有する。 6) 看護過程を通し、看護の学びを深め、今後の課題を明らかにする。				
教科書	看護専門領域（健康・疾病・障害の理解、看護の基本、看護援助の方法等）のテキスト、授業で配布された資料の他、受け持つ対象者のアセスメントに必要な各専門書、看護書を用いる。				
参考図書等	系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院				
評価指標	評価の割合は実習記録を60%、実習態度やカンファレンスへの参加状況等を40%とする。				
関連科目	看護学概論、基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、基礎看護学実習Ⅰ、人間機能学、人間病態学、疾病障害論、臨床薬理学、臨床栄養学、フィジカルアセスメント等				
教員から学生へのメッセージ	看護を必要としている対象に対して、先ず必要なことは専門的で知的な関心です。身体的な健康状態を的確にアセスメントすることにより、対象への人間的な関心も自ずと深いものになります。実習では特に人間機能学、人間病態学、疾病・障害論、看護の基本などで学んだ知識の統合が求められます。そのため、日頃から段階的に知識を定着させるよう自学自習しておくことが肝要です。また、看護計画の適切な実施のための準備では、実習前にバイタルサイン測定や清潔援助等の観察技術・日常生活援助技術をくりかえし練習しておくことが必要です。				